

小学校英語活動レポート

ターゲット	“What’s wrong?” “I have a ...” 上記の表現を知り、進んで使おうとすること。		
主な語彙	headache, toothache, stomachache, backache		
クラス	6年生（6年1組） 36名、 45分間（※教室移動のため開始遅れ、実際は35分程度で実施）		
テキスト	特になし		
他に使ったもの	動作カード（大・1セット=B5サイズでラミネートした動作のカードを4枚、 小・9セット=B5を4等分したくらいのサイズで、ラミネートしたもの）、マグネット		
授業の流れ	主な活動		
	HRT(担任)	ES(英語サポーター)	子どもたち
Greeting	（スタート合図を出す）	Hello. Nice to meet you! （自己紹介）	Hello!
Warm up Simon Says	一緒に動作をする。	命令ゲーム "Simon Says" の名前部分を変えて行う。リーダーとなって、クラスに指示を出す。 Sayaka says, touch your stomach! 自分でも大きく動作をする。	全員が同時に参加して行う。 間違えた子は座って、ほかの子どもたちを見学する。（この活動は何度もしている様子で、子どもたちも慣れてきた）
Words Practice	マグネットを使い、カードを黒板にとめる。 サポーターの後に続いて、子どもたちと一緒に発音する。	まず、状況を簡単に（一人で）実演し、理解をうながす。 How are you? -Oh, I have a headache. （動作、表情もつけて） カードを指しながら単語を改めて導入、口頭で練習する。 例）headache（動作・表情とともに） ...head（頭をおさえる） ...ache（痛そうな表情をする） headache（分解して発音→一語単位に戻して練習）	該当するからだの部分をさわりながら、発音練習をする。 headache, toothache, stomachache, backache

↓金井さやかより、コメント↓

担任の男性教諭は、20代半ば、「英語はぜんぜんダメです」と言いながらも、私がクラス全体に向かって、または担任に向かって言った質問や指示などは通じている。

この前の時間では、男女別に違う教室で学習していたとのことで、特に女子の集合が遅れてしまい、約10分遅れでのスタートとなった。

さらに、自己紹介をしている段階でもまだ全員そろわず、最後の女子児童2人が席に着いたのはWarm upの活動が終わったあとだった。前の時間に何かで叱られたように見える。

- 名札はなし
 - 顔つきが沈んでいる（特に女子）
- 「マイナス」の空気でのスタートとなる。

単語練習中、女子児童の中には、明らかに斜に構えて、口を動かさない子がいる。次の活動中に（笑顔で！）近づいて様子を見たら、ちゃんと声を出していた。友達とのグループ活動だと生き生きしていたので、これもOKだと思う。（活動で声を出せるということは、その前の練習の段階でちゃんと参加していた証拠なので。）

<p>Activity1 Memory ゲーム (What's my card?)</p>	<p>4 人一組として子どもたちを 9 グループに分ける。 グループの一つに加わって活 動する。</p>	<p>ゲームのやり方を実演した後、活動の指 示を出しながら、子どもたちの間を回っ てフォローする。 Are you ready? 3, 2, 1, Go!</p>	<p>(この活動は初めてではないと のことで、すぐに活動へ移る) 9 グループに分かれて、ゲームを 行う。 ... Stomachache! (ゲーム終了後、机を元の位置 に戻す)</p>
<p>Activity2 Interview ゲーム</p>	<p>導入時、ES とともに会話の実 演をする。 カードを一枚持ち、子どもた ちの間を回って、活動に参加 する。</p>	<p>会話表現を導入、練習。 A: Hello. How are you? B: I'm sick. A: What's wrong? B: I have a ... (A: Oh, take care. B: Thank you.) 練習時間の都合などで、カッコ内の表現 は口頭での提示のみ、練習はなし。 子どもたちの間を回ってフォローしな がら、活動に参加する。</p>	<p>会話表現を練習する。 その後、1 枚ずつ配布されるカー ドを持って、今日室内を歩き回 り、自分のカードの内容に合わせて、クラスメート 3 人とやり 取りする。</p>
<p>Review</p>	<p>子どもたちと一緒に発話す る。</p>	<p>カードを指しながら、英語表現をリズム よく復習する。 What's wrong? と問いかける。</p>	<p>I have a ... カードの絵に応じて、該当する からだの部分をさわりながら、 答えていく。</p>
<p>Closing</p>	<p>Thank you, goodbye.</p>	<p>Time is up. That's all for today. See you next time. Thank you.</p>	<p>Thank you, goodbye.</p>

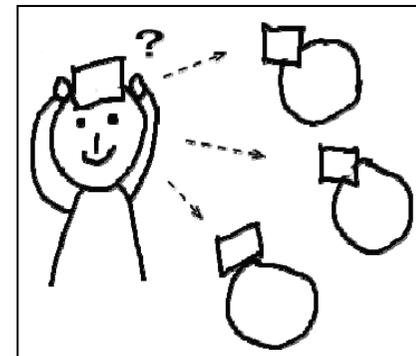
この時点で、“I have a ...” を練習してゲームで使っておいた方が、このあとの会話にスムーズにつながると、あとで反省。

インタビューゲームでは、専用シートを使って活動する予定だったが、残り時間とのバランスを考えて実施方法を変更した。担任からは「時間もないのでカットしますか」との提案もあったが、せっかくの表現を使う体験をしてほしいと思い、了解を得て進めた。子どもたちは限られた時間内でコミュニケーションに挑戦し、結果として、クラス全体の雰囲気も良くなった状態で授業を終えることができた。

Activity: メモリーゲーム ～What's my card? (4語・4人グループ版)

- (1) 4人一組で、4枚のカード(人数と同じ枚数のカード)を使う。机を4つ寄せて、全員が向き合う形で行う。
- (2) カードを机の上に広げ、どのカードがあるかを覚えたあと、裏返して混ぜる。
- (3) 「3, 2, 1, go!」の合図で一人1枚ずつカードを取り、自分ではそのカードを見ないように、おでこに当てる。
このとき、他の仲間からは自分のカードに書いた字や絵が見えるようにする。
- (4) 仲間が持っているカードを見渡して、自分のカードが何かを推測し、できるだけ早く自分のカードが何かを当てる。

例: headache, toothache, stomachache, backache のカードを使い、
headache, toothache, stomachache のカードが自分から見えている場合・・・“(I have a) backache.”
これを繰り返す。



←今回の活動で使用したカード・大。同じ絵柄で小サイズのカードを活動に使用した。

大きいサイズのカードは、黒板にマグネットではり、それぞれのカードの下に英単語も板書した。こうすることで、文字も自然に目に入るようにした。

参考: 活動案サンプルや絵カード集

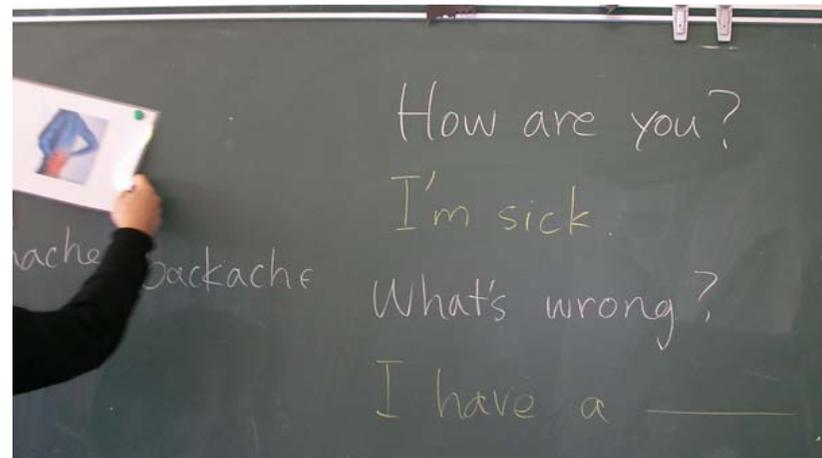
→[子ども英語BOOKSシリーズをチェック](#) (私も執筆をお手伝いしたりしています。今回の語いは未収録ですが、幅広く使える活動資料集としておすすめです。)

Activity: インタビューゲーム

今回の会話文：

A: Hello. How are you?
B: I'm sick.
A: What's wrong?
B: I have a ...
(A: Oh, take care.
B: Thank you.)

カッコ内はクラスの様子、定着度に
応じて追加する。



(1) 会話の実演を見せて導入したあと、クラス全員で、基本文を含んだ会話表現の練習をする。

練習は、段階をふんで行うのがベスト。

クラス全体で（講師が「話者 A」、児童が「話者 B」、その逆も行う）

→クラスを半分に分けて（教室内の座席・右半分が「話者 A」、左半分が「話者 B」、その逆も行う）

→隣の席の児童と役を交代しながら

→席を立てて個人で

毎回すべての段階で練習できるとは限らないが、ターゲットとなる表現をある程度自信を持って言えるまで繰り返すことが必要。子どもたちが練習不足のまま席を立てても、クラスメートと会話ができないため。

(2) headache, toothache, stomachache, backache のカードを、ランダムに一人一枚ずつ配布する。そのカードに書かれた「症状」で、友人とやり取りするよう指示。また、持ち時間や何人と話すか、なども指示する。

例) If you have this card, (カードを見せ、動作もしながら) you have a headache. Say, "I have a headache."

You will have two minutes. Please talk to 3 people [as many people as possible].

(3) "Ready, go!" の掛け声で、子どもたちは教室内を歩き回り、出会った友達と会話する。シート（※最終ページ参照）を使う場合は、鉛筆を持ち歩き、記入していく。

(4) "Time is up!" の合図で子どもたちは席に戻る。シートを使った場合は、誰がどんな症状だったか、隣の席同士などで見せ合う。

* 学校の状況・・・1～6年（全学年）を対象として英語活動を実施しはじめて、2年目になる。必修化が近づいているのを受けて、昨年度の月1回程度実施から、時間数を大幅に増やして行っている。

（1コマ45分で、1～4年生 国際理解教室5時間を含む年間20時間、5、6年生 年間35時間）

学校に週2日ほど派遣されてくるAETはいるが、AETだけでは予定している全クラスをカバーできない。そこで、以下の4通りの指導形態を適宜取り入れている。

「担任のみ」

「担任+AET」

「担任+日本人サポーター」

「担任+AET+日本人サポーター」

* 英語活動の準備について・・・指導案は学校側であらかじめ1コマ分を作成して表にしてくれている。今回は前日に電話で英語の指導主任から予定の内容を聞いた。（他のサポーターは、自分の子が通っている小学校なので、子どもを通じて書面で事前に受け取ることが多い）

* 補助教材の準備について・・・絵カードは、インターネット上のクリップアート（イラスト）を使って作成し、学校内でラミネートしたものだったこと。

◆ 教室でのサポートがメインになるため、活動中の写真などは撮影できませんが、実際の授業内容を元に、できるだけ分かりやすく、再現しやすく、といった点に気をつけながらレポートを作成しました。ご質問・ご要望などがありましたら、遠慮なくお寄せください。指導案・レポートへのご意見、実際に取り入れてみての様子やご感想などもお待ちしております。

メールアドレス

info@english-box.com （English-Box 金井さやか まで）

◆ 活動を終えて：

今回は、いつも以上に「気使ったあ～！」と言いたくなるひとコマでした。男女別での教室移動による時間のロスでスタートしたうえ、何よりも雰囲気作りに気持ちを注ぎ続けた日でした。

担任のA先生が、サポーターである私に授業の流れを一任し、挨拶を始めるタイミング、活動を切り替えるタイミングなど一切「おまかせ」状態でした。（もちろん悪気があってのことではないのですが、少し戸惑いました。「担任主導でやっています」という小学校でも、こういうクラスがあるのですね）

【雰囲気作りの問題】

- ・ 小学6年生という年頃もあり、「このクラス、普段から女子はあまり乗ってこないです」（授業後、A先生・談）
- ・ 直前の授業で叱られてきた様子の女子児童たちは沈みがち

【授業への姿勢】

- ・ 筆記用具を片付けるよう指示を出し、全員が片付けるまで待っていたにもかかわらず、再度取り出して友達へのメモを書き始める子どもが2人いた
- ・ 直前の授業で使ったらしい「水の入ったビニール袋」が各男子の机の上に置かれ、授業中に破れて水漏れ・中断すること3回（さわらないで、という指示を出したが、それでは甘く、担任の協力を得てすべて片付けてからスタートすべきだった、と思う）
- ・ 遅れて授業に参加した女子児童の一人が、漫画本を取り出して読もうとした（！） など…

そして、この状態に対して、A先生からは指示や注意が特になし（私が流れを作っているのだから気を使ったのかもしれない）。これにめげずに、子どものメンツをつぶさないようにしながらもしっかりチェックを入れて、笑顔で授業をしめくくりました。

授業後、「慣れてますね～」とA先生に言われましたが、何千時間も経験して学んでいるおかげです。担任も児童も、「楽しく実りある授業」という同じ目的を持っているはず、私も彼らと「チーム」という意識を持ってコミュニケーションしていきます！